

余の見聞したる米國

服部 宇之吉

唯今林伯爵、加藤博士より御紹介を受けました。實は今夕お話を申上げるやうにと云ふことで御請は致したのでございますが、格別大した話は出来ませぬと云ふことを豫めお断りをして置きました。然るに今夕の會の御通知を皆様に御發しになりましたのを私も一枚頂戴して拜見致しますと、何か有益なる話でもするが如くに特別にお断りがありましたので、それを拜見して私は甚だ衷心忸怩たるものがあつたのであります、唯今又此處で加藤博士及林伯爵から再びさう云ふ御披露がありましたので重ね／＼恐縮に堪えませぬ。初申上げましたやうに極く詰まらぬお話を致しますので皆様の御豫想とは非常に反對の結果になるやうな次第でございます。これは豫め惡からず御承知を願ひたいと思ひます。殊に東洋研究と云ふことに就いて申上げる考は實は有つて居りませぬので唯雜感を申上げるに止まります。此點に於て第一加藤博士をして非常に豫想に反した話であるといふて不愉快に思はせ申すことになりませぬ。甚だ相濟みませぬが、洵に雜駁な私の感じを申上げること御免を蒙りたいと思ひます。それも一々吾々の取つて模範とすべきものであると考へて話を致すといふ譯ではありませぬ、唯自分の頭腦の中に齎

しました感じを順序も何も無しに申上げることあります。其點はどうぞ御容赦を願ひたい。殊に學年の初て大層忙しいもんですから原稿まで拵へてお話いたすことが出来ませぬのでホンの手控に依つて申上げるのであります。元來不辯なるものが尙一層御聽苦しい話にならうと思ひます。

亞米利加の事に就きましては一口に申上げるとは中々難かしいと思ひます。私は前年少し長く支那に居りましたが、支那人は口を開けば土地が大にして人民が多いといふことをよく申すのであります。何か私共が支那の政治の事——政治の事は餘り申さぬ、動もすれば政治に觸れたこともありませうが、兎に角政治、教育、或は社會的の事に就いて改革とか革新とかいふやうな話を致しますと、貴國は土地も小さいし人民も少ないから實行が極めて容易いだらうが、我が支那は土地が大であつて人民が多數であるが故に實行が極めて難いと思ひまして、土地の大、人民の多數といふことを始終申すのであります。所が今度亞米利加に行つて見ますと、亞米利加の人がやはり同じことを申して居ります。自分の國は土地が大きくて人が多いと云ふことを申して居ります。一寸一種の國自慢の様に聞えますけれども、それはマア實際のことでございます。隨て人情風俗習慣と云ふことも、亞米利加の内でも處に依つて異なりまして、一口に亞米利加は斯う云ふ風だといふ様に申すことは出来ない。よく西洋人の書きましたものに、支那では斯の如き習慣があるとか斯の如き風俗があると云つてある。それは支那の極めて一小部分に行はれて居ること、即ち其書物を書きました人が自分の居つた地方で經驗したことである、

其れを直ちに「支那では」と書いてあるのを見まして私は書を著すことの非常に難く若し不注意であると非常に人を誤るといふことを感じたのでありますが、亞米利加も其通りであります。私はボストンの街續きのケンブリッジ即ちハーバード大學所在地に滞在して少し其周圍を旅行し又歸途に少し旅行した丈でありますから、亞米利加は斯くの如しといふことを私の口から申しますことは、西洋人の支那に就いて書いたものを甚だ不注意であると平生思つて居つた所からしても出来ませぬ。亞米利加人自身も申して居りますが、外の國では一部の小説を以て其國の人情風俗を書き表はし或は代表することが出来るけれども亞米利加に於ては其れと類する所の小説を求めても到底出来ないと云つて居ります。或はニューファウンドランドの風俗人情を代表する小説を書かうと思つたら書けやう、或は西部亞米利加の人情風俗を代表する小説を書かうと思つたら書くことが出来やう、或は南の方の亞米利加の人情風俗を代表する小説を作るとは出来るであらう、併し東も西も南も北も、亞米利加全體を代表する所の小説と云ふものは到底書くことが出来ない、亞米利加に其程偉い頭腦を有つて居る小説家が無い譯ではない、亞米利加の人情風俗習慣が非常に雜駁であり社會の事情が異なる故に到底一部の小説を以て其總てを代表するものは出来ないといふことを申して居りますが、是れは蓋し事實であらうと思ひます。さう云ふ譯でありますから、私の如き極く狭い範圍に短い間居りました者が單に亞米利加と云ふ題目の下に話をすることは出来ませぬ、唯自分の感じたこと及び新聞雜誌等によつて窺ひました極く皮相な考を申上げる

に止まるのであります。

亞米利加には人間の種類と致しまして——種族と云ふ様な意味でなしに、人間の種類が二通り有るのであらうと思ひます。即ち自由を樂まんが爲めに亞米利加に移つて來たと云ふ者がある。一番初に亞米利加に參つた者が其れてありますし、又其れから後でも、或は獨逸の徵兵制度に反對し徵兵令に依つて兵役に服することを好まぬ、或は獨逸の官僚政治の下に生活することを好まぬ、さう云ふ風な者が亞米利加に來て居る。此等は自己の信ずる所を束縛無しに自由に樂まんが爲めに、即ち完全なる自由を樂まんが爲めに來た人であると思ひますが、さういふ一種の人種が確に居る。もう一つは唯自己の運命を开拓するといふ爲めに亞米利加に來た者であります。彼の非常なる困難を冒しまして、人跡至らずと申すと餘り甚しいかも知れませぬが、土人の居つたやうな危険な所を冒して西部亞米利加まで飛出して行つた所の人間は、是れは何も東の方では完全なる自由を樂むことが出來ないから西の方に行つて完全に自由を樂みたいといふ爲めに行つた者ではない、全く西の新天地に向つて自己の運命を开拓しやうと云ふ考て行つた人であると思ひます。又近來歐洲各國東洋地方から亞米利加に行く人の中にもさう云ふ意味で行く人が随分有る様であります。故に亞米利加には大別して考へますと自由を樂まんが爲に居る人と新天地に於て自己の運命を开拓せんが爲に居る人と、此二通り有ると思ひます。同じ亞米利加人と申しましても其孰れかの種類に屬するものに依て自然其人の氣性とか或は思想と云ふものに餘程違ふ所があ

ると思ます。又東と西と較べますと、例へばニューファウンドランドで申しますと、最初の歐羅巴移住民の來た所でありまして大分舊家があります。勿論最近の亞米利加の事實に依りますと、初め英吉利などから移住して來た人の子孫は段々死絶える傾きがあるさうであります。之に就ては色々の原因もありませうが、然し全く死絶えたのではございませぬし、矢張舊家が随分存在して居ります。此等の人の中には自己の家の系圖などを非常に自慢する人があります。私共が訪ねますと、應接室に色々寫眞油繪などが懸けてありまして、是が自分の何代前の人である、是が自分の親であると云ふやうに澤山懸けてある。又色々な品物を取り出して來て見せまして、是が自分の祖父の使つたものである。或は是は自分より何代前の祖先の用ひたものであると云ふやうに説明する。又系圖を出して來て、自分の母は何處から來て居る、祖母は何處から來て居る、其前の人は何處から出て居る、自分の父はどう云ふ風の勤めをした人である。或は獨立戦争の時分に戦死したとか言つて頻りに家系を誇り自分の家の門地を誇ると云ふ傾向があります。斯う云ふやうなことは到底太平洋沿岸の亞米利加人には看ることが出來ないのであります。太平洋沿岸に居る人などは何れ新しくあの邊に移つた人でありませう。全く自分の獨力で人跡到らざる所を踏破り、人の慤ない所で何か自己の運命を開拓する爲に行つた連中でありませうから、家系に誇るとか系圖を自慢するといふやうな考は殆ど有つて居らぬ様であります。こちらから汽車で参りますと、數千呎の高さのある所のロッキーマン山の上に段々小さな街が開かれて居る。私が十五年程前に通つた

時分には漸く家が一二軒しか無かつたが、昨年參つて見ますると、殆ど一つの小都會を成して居る。洵に乾燥無味なる土地に漸く樹と申すと家の周圍にドロの樹が二三本あると云ふやうな所で、周圍は皆非常に高く、冬は雪が眞白であらうと思ふ所に住つて居る。是等は山河の景とか自然を楽しむと云ふことは殆どないのでありませう。唯如何にして金を儲けるか如何にして自分の運命を開拓するかと云ふことを晝夜苦心して居るものと思ひます。斯う云ふ所に居る人などは、到底自分の家の系圖とか自分の家の先祖とか或は家傳來の寶物などを人に見せて誇るやうな考は有つて居ないだらうと思ひます。さう云ふ譯てありますから、同じ亞米利加でも土地に依て餘程人間の氣性なり思想などが違つて居るのであります。

又妙な話で、是は特に私は研究した譯でもございませぬが、日本邊りから頻りに骨董品などを賣りに出て居る人があります。立派な骨董品を賣る店がシゴゴ、紐育、ポストンと云ふ様な非常に古い所がありますが、新しい所にはさう云ふ店を出した所で到底商賣はない。先づ骨董品などを把玩らうと云ふ人は、何れ亞米利加の中でも古く開けた所で、さうして比較的運命の既に定つて居るやうな所の人でなければさう云ふ樂みをする人は無いと思ふ。太平洋の沿岸に行つて自己の運命を開拓しようと云ふやうな人はさう云ふ餘地が無い。又さう云ふことを考へることも無い。さう云ふ様な譯で亞米利加は所に依て住んで居る人の氣性なり思想なりが違ひ、風俗までも自から異なる所以であります。

成程斯様な譯で、新しい所に行つて自分の前途の運命を開拓して行く人は頗る勇往邁進の氣性に富ん

て居るであらうと思ひますが、古く開けた所に居る人の様に、優美と言ひますか、閑雅と言ひますか、高尚と言ひますか、さう云ふ氣性に乏しいと私共の皮相の考からは思はれるのであります。

先刻申しました様に、亞米利加の土地が非常に大きいと云ふことは、亞米利加人も餘程痛切に感じて居ると見えます。私が参りました時分に一つの笑ひ話として聞いて居りますが、太平洋沿岸の或る亞米利加人がポストンに参りまして、さうして演説をいたしました中に、吾れ此極東に來れりと云ふことを言つたさうであります。唯極東と言つたのでは普通亞米利加人も誰でも日本を指して居るのであります。

然るに何等の制限する言葉を用いずして、吾れ此極東に來れりと言ふたので非常に滿堂の笑ひを買つたと云ふ話がありますが、兎に角非常に遠方まで來たと云ふ感じを其亞米利加の紳士は持つて居つたのであります。亞米利加の汽車は御承知の通り大層速い、日本の汽車と較ぶれば非常に速力が多い。先づ一時間に四十哩は出るのですが、其四十哩の汽車に乗つても、シヤトルからポストン迄参りますには、直行て百時間位かゝるのでありますから成程亞米利加の人が考へたら太平洋沿岸からニューファウンドランドの端まで來れば知らず／＼極東と云ふ言葉を用ひたのかも知れぬ。兎に角自分の國が非常に大きいと云ふことは亞米利加人は餘程痛切に感じて居るのであります。隨て一方では非常に勇往邁進の氣性に富んで居るやうでありますが、又一方に東の端から西の端まで行くことは容易でないと云ふことを考へます。殊に大學の教授などは、容易にポストン邊から桑港、シヤトルと云ふやうな太平洋沿岸迄

は行つて見やうと思つて居ない。シカゴまで行つても亞米利加の汽車で三十六時間もかゝるのでありますから、兎に角容易に行けぬと思つて居る。實際自分の國の非常に大きいことを感じて居る。非常に大きいことを感じて居るのは同時に亞米利加の國の富源の大なることを亦感じて居る。天然の富源の大なることを感じて居る。自分の國と云ふものに絶大の力の有ると云ふことを餘程深く感じて居ると私は信じました。是が自然亞米利加人の一つの氣性の上に影響して居ると思ひます。己れを信ずる力が餘程亞米利加人は強いと思ひます。支那人は唯自分の國の土地が大きい人間が多いと云ふて自慢する、其の自尊心と亞米利加人の自尊心とは、必しも細い點に於ては同一でありませぬが、兎に角己れの力を信ずることは中々強いものであらうと思ひます。

そこで亞米利加人は頗る突飛な思想を有し突飛なる行動をすることが往々にある様に見えます。外交上の事などに就きましても、日本人の頭腦からは到底思ひ浮ばないやうなことを亞米利加人はやる。此等も一つは亞米利加と云ふ國が非常に大きく廣い國であつて、而も新しい國であるといふことに、餘程關係があるのであらうと思ひます。と申しますことは既に古い國であつて總てのことが先づ固定とまでは行きませぬでも既に定つて居る國では、中々個人が一種の飛び離れた考を立てゝも、其考の實行されることが難い、動もすれば理想ではない、貴様のは空想であると嘲けられるやうな場合があらうと思ひます。然るに亞米利加では他の國に於て空想と嘲けられるやうなことが随分實現される機會が尠くない。

日本などで、例へば身赤貧洗ふが如しと言ひ殆ど一文の貯へのないやうな人間が百萬圓の富を造らうとか千萬圓の富を造らうと云ふことを考へましたならば、殆ど空中樓閣で夢を見て居るとか、或は甚だしきは一種の精神病者位に思はれるかも知れぬが、亞米利加ではさう云ふことが澤山實現されるやうであります。其例は一々擧げる必要はないと思ひますが、ポストンに居ります間に三百五十萬弗程の金を寄附して一種の病院を造つた富豪がありました。マタネルホスピタルと申して、詰り子供を持つて居る母などを收容する、無論是は中流以下の者で己れが金を投じて病院に入ることの出来ないやうな者で子供のある者、さう云ふ母子共に入院させる病院であります。其病院の建築費は全體で三百五十萬弗かゝりまして、それを一手に出した人があります。私の懇意にして居る人がありまして、其人から聞きました所が、其富豪は全く一文無しの小僧から成り上つた人であると云ふことであります。十五六歳の時に田舎から出て参りましてポストンの邊に來てブラツと職業を求めた。何等の紹介もなく突然或る商店に飛込で、其商店の主人に向つて自分を使つて呉れと云ふことを求めたのであります。所が、さう云ふ者は始終來るから、忙しい主人が一々應接して居る閑はないので主人は唯子僧の顔ばかり見ては自分の仕事をしてペンを走らして居つた。所が煩癖く、どうぞ自分を使つて呉れと云ふことを度々申して餘り五月蠅いので、其主人がペンを止めて小僧の顔を見た所が、何か見込があると思ひまして、段々話をして見ました所が、どうも今汝を用ひるだけの途は無いと言ふ。所が小僧がイヤ私は唯試みて貰ひたい、若し役

に立たなければ抛り出して呉れ、何かの役に立つならば役に立つだけは貴方の見込で給金を呉れるなりして貰ひたい、兎に角試みて呉れと言つて中々肯かない。そこで主人は、一寸面白い奴だから何か仕事をさせた。極く詰らぬ仕事です。所が其詰らぬ仕事に對して實に朝から晩まで誠實にやつて居る。是は役に立つだらうと云ふので段々引上げて遂に番頭にした。それから段々出世をして遂に其子僧は獨立して今日では非常な富を成して居る。是が今申した三百五十萬弗を出して病院を造つたと云ふのでありますから、其人自身の富は二千萬弗以上にも及ぶだらうと思ひます。兎に角さう云ふ例は澤山あります。丁度私がシャトルに參りました時に、シャトルで聞きましたのであります。大北鐵道の社長——鐵道大王とも申される人でありまして、又日本人に取つては頗る恩人であります所のジョン・ヒルと云ふ人が死にました。是は遺産が五億弗とも云ひ或は二億弗とも云ひますが、何れ精密に調査した上でなければ定まりませぬが、少なく見ても二億弗、多ければ五億弗であります。此の人も小さい時分に兩親に別れて殆んど擔石の貯へも無く、唯だ自分の腕一本、腕一本が資本であつて鐵道の工夫から成り上つたと云ふことであります。さう云ふ例は亞米利加には澤山あるやうであります。此等は金儲をするとか富を成し身を立てると云ふ方から申したのであります。兎に角、日本などでは十五六歳の小僧が一千萬圓の大商店の主人になると云ふことは考へられませぬが、亞米利加ではさう云ふ考を持つて居つても遂にそれを實現する機會があるさうであります。さう云ふことで亞米利加と云ふ國の力を信ずることが強い、又

自己の力を信ずることが強くして、非常に大なる理想に向つて勇往邁進すると云ふ氣性が體にあることと思ひます。そこで亞米利加人が何か一つ仕事を始めると、随分飛離れた、金のかゝることなどは一切頓着無しに爲すやうであります。案内記を見ましても又案内者の説明などを聞きましても、或は亞米利加の紳士に尋ねましても、金のことが一番先きに出て来る。此ステーションは非常に壯觀ではないか、如何にも壯觀だ、さうだらう一千萬弗かゝつて居る。此圖書館は非常に立派だ、實に立派だ、二千萬弗かゝつて居ると言ふ。必ず金のことを言ふ。さう云ふ風であるから金のことを口にするを好まない所の日本の武士質氣の人からは亞米利加人は非常な拜金宗で不愉快に感ずるやうなことがあるさうであります。もう一つ亞米利加人の案内者又亞米利加人の口から此ステーションは世界第一である、此鐵橋は世界第一であると云ふやうに無暗に世界第一だと云ふことを言ふ。或は中にはそれを氣にして、お前の國には世界第一がいくつあるかと云ふことを聞いて居る人がある、そんなことを追窮する必要はないのであります。兎に角亞米利加人は世界第一と云ふ考を始終持つて居る。是は堂々たる案内記にも書いてあることでもありますから、何も戲談を言ふ譯でもなければ嘘をつく譯でもない。兎に角さう云ふ風に信じて居る。それが一方から申しましたら子供らしいが同時に彼等の抱負の大なることを見る事が出来ると思ひます。日本人の様に遠慮するので無しに、自分の國では何でも世界第一だと云ふやうに誇る。自信力が強いのであらうと思ふ。餘り自信力が強くななくても弊害がありませんが、兎に角さう云ふ風に

私は感じたのであります。

御承知の様に、私の居ります内に亞米利加では軍備擴張の問題が起りましたが、是も愈々軍備擴張のやるとならば素晴らしいことをやるだらうと思ひます。兎に角今の軍備擴張が出来ますと海軍も日本の數倍の力になるさうであります。陸軍なども現在では甚だ微々たるものゝやうてありますが、是も或る程度迄擴張するらしい、随分將來大きな事をやるかも知れませぬ。何しろやらぬ時は随分やらずに抛つて置くが、やるとなれば非常に思ひ切つてやる。彼の名高いソルトレークと云ふ湖がありまして、其近所にはモルモン宗の坊さんが居りますが、何しろ大きな湖で其合鹽量は海の水より餘程多いのであります。もと汽車は其湖水の周圍を迂回して通したものでありますが、然るに今は其線路を棄て、湖水を突切つて非常に長い間を通して居る。日本の琵琶湖の鐵橋の様にはありませぬ、勢多の唐橋から堅田の方へ眞直に線路を布いたものよりもつと長いものである。何しろ湖水の中を突切つたものでありますから大變金がかゝつたのでありませう。何でも二三千萬弗かゝつたさうてあります。さうして前の様に迂回するのと較べて僅か二三時間を短縮することが出来た。二三時間を儉約する爲に二三千萬弗の金を費して、さう云ふ線路を拵へた。是は日本人などは金が有つた所で中々望むことは出来ないと思ふ。兎に角餘程大きな仕事をして居りますので、吾々が見ても如何にも仕事は結構だと思ひすが、さう云ふ風に非常に高遠なる殆ど空想とも嘲げられる位の理想を立て、それに向つて勇往邁進して遂に之を實現する所の勇

氣と自信力を有つて居るのであります。

更に一方から申しますと、亞米利加人は非常に神經的であります。先刻申しました様なロッキー山の上の僅か十軒か二十軒の家が固つて都會を成して居る様な所では何れ程神經過敏であるかは分りませぬが、兎に角大きな都會に於ては頗る神經的であります、亞米利加人も常に言つて居る。餘り神經が緊張し過ぎて居ると言つて居る。是も一方では生活の程度と言ひますか寧ろ生活費用が段々累む爲に成可く多くの生活費を得なければならぬと云ふ物質的の壓迫から來て居ると云ふことが大きな原因であります。ませうから、生活費用を安くすると云ふ工夫の出來ない以上は到底此亞米利加人の神經を緊張して居るものを弛緩ならしむると云ふことは難しいであります。兎に角頗る緊張して居るやうであります。殊に紐育邊りに行きますと——私の居りましたケンブリッジは別であります。が、ボストンに參り、ボストンから紐育に參りますと、紐育邊りては往來の人を見ても其神經の緊張して居ることが歴然として分るのであります。往來を歩く人が、決して日本に於て神田の須田町や日本橋邊を歩いて居る様な態度ではない、殆ど、血眼の様な勢ひで、人を押し倒してもと云ふ位の意氣でやつて居る。無論秩序はありません。すから人を押し倒すと云ふことはありませぬが、兎に角其位の勢ひで非常に急いで一步も忽せにせぬと云ふ状態で歩いて居る。何しろ人間が忙がしい。如何に生活の爲に忙がしくして居るか如何に神經が緊張して居るかと云ふことが分る。ボストン邊に於てはそれが餘程違つて參りますが、併しそれでも日本

の東京邊りと較べると餘程人の神經が緊張して居る。先刻申しました數千呎のロッキン山の上でも自働車がある。自分の所有の自働車もありませんし或は又貸自働車もありませんが、それが走つて居ると云ふのでありますから、到底緩りしたのではない。都會と地方とは多少程度の差はありませうけれども、神經的になつて居ると云ふ點は大した變りはない。概して申しますれば日本人など、較べれば非常に神經的になつて居ると云ふことが言へるのであります。何分生活費が段々高くなるといふことに就て隨分亞米利加でも困つて居ります。是は色々の原因から來ませう。或ものは社會政策に依て多少救濟することもありませうが、併し全部救濟することは出來ない。殊に亞米利加では金と云ふものゝ外は人間が自己の位地を保つと云ふても何も要素は無い様であります。勿論學者は亞米利加でも相應に尊ばれて居るやうであります。大學の教授などは貧乏な者だと言ふて居りまして、マア貧乏な人が多い様であります。が、馬鹿でなければ大學の教授になれぬと言ふて居ります。併し金を尊ぶ亞米利加でも矢張知識と云ふ點に於ては餘程尊敬されて居る。其外に金と云ふ外は標準が無いから、如何にして金を多く得るかと云ふことに一般の人が腐心して居る。それが爲に一生營々として苦んで居るのであります。

併し金を得ますと、其金を自分が死んだ後に公益の爲に用ゐると云ふことをやつて居ります。頗る思ひ切つたことをやつて居る。先刻申しました三百五十萬弗を以て病院を建てた人は、また自分が生きて居る時にやつたのであります。死した後に公益の爲に費すと云ふことをする。是は御承知の方が澤

山ありませうが、私立大學などに人の知らぬ内に巨額の寄附をして居る。大學の建物が立派になつたり或は地面を買込むことが出来る、或は新に講座を設けることが出来る、或は美術館の無かつた所に急に美術館が建つと云ふ風で種々なるものが個人の寄附に依て出来上つて行くやうであります。此等は少し悪い方から觀察しますれば——必しも皆さうでないかも知れませぬが、名を欲すると云ふやうなことが其中に含まれて居るのではないかと思ひます。と云ふのは、圖書館の寄附とか、或は博物館の寄附とか、或は大學の寄附とか言つても、其建物を寄附する人は随分あるが、併ながら其建物の内部に入るべき即ち圖書館ならば書籍、大學ならば書籍なり機械なり標本なり、又博物館ならば美術品と云ふものまで寄附する人は割合に尠ない。美術館ならば自分が美術品を持つて居るが故に、之を美術館と共に寄附する人もありますが、圖書館の如きになりますと、主に建物を寄附する。内部の設備に向つて寄附する人は極めて稀である。是は建物を寄附しますと大抵其人の名が顯はれる。或は服部と云ふ人が寄附すれば服部と云ふ名を冠したものになる。さうでなくつても兎に角其人の名が何處かに顯はれる。故に建物に依て己れの名を後世に傳へ、又永久に傳へることが出来ると云ふ所からするのであらう。書籍を寄附した所て一つ／＼の書籍に何某の寄附と云ふ判は捺されるであらうが、併し堂々たる建物の様に一般の人の目を引くことは尠ないので、寧ろ自分の名を後世に傳へるには建物の方が捷徑であると云ふ爲であるのではないかと云ふ風に私は考へたのであります。公益の爲に金を投ずるのでありますけれども、それ

と共に己れの名を傳へる。例へばカリホルニアのスタンフォード大學と云ふのは一種變つた立派なものでありますが、是はスタンフォードと云ふ人が自分一手の寄附に依て造つたものであります。將來は他の人の寄附も貰ふことになるかも知れませぬが、兎に角八千萬弗かの寄附をして、それに依てあの大學は出來上つたので、即ち己れの名を冠してスタンフォード大學と云つて居るのであります。其大學の在る限り亞米利加と云ふ國の在る限りは自分の名が傳はる譯であります。ハーバード大學も同じことで、是はジョンハーバードと云ふ人が極く僅かの寄附をしたのが本であります。でありますから若し己れの名を後世に傳へんと欲すれば、己れの名を世界に遺さんと欲すれば、さう云ふことに寄附するのが洵に宜い方法であると思ひます。それが亞米利加人をして苦心慘憺の結果蓄積した巨萬の金を惜氣なく投ぜしむる所以では無からうかと思ひます。シカゴ大學の如きもロックフェラーの寄附であります。是はロックフェラー大學と云ふ名に仕様と言つた所が、斷じて承知しなかつた、其爲に遂にシカゴ大學と云ふ名になつて居るさうであります。さうして其下へ以て行つて小さく「ロックフェラー創立」と云ふ註が這入て居る。此等は己れの名を顯はすことを欲せずして非常に大きな大學を獨力で創立したのであります。さう云ふ變つた人もあるやうてありますが、多くは今申上げたやうに自分の名を顯はす爲にするのであらう。公益の爲にするのではありますが、同時に其中には自己の名を顯はすと云ふことも這入て居るのであります。そこで私考へますには、日本と亞米利加とは國柄も違ひますから、無論直ぐに其眞似は出

來ませぬが、日本でも將來大分金を造る人もありませうし、又さう云ふ人が公共の爲に金を使はれるてありませうが、其寄附したものに對して其人の名を冠するやうなことが行はれるやうにしたら非常に宜いことではないかと感じたのであります。將來さう云ふ道を開いた方が良くはないかと思つたのであります。

次に亞米利加の婦人のことに就て一寸申して見たいと思ひます。私亞米利加に参りましたから大學の講義には婦人は全く出て居りませぬ。ハーバード大學は男女合併教育をしないのであります。ハーバード大學の一部分に附屬と云ひますか女子大學があります。女のコレツヂがあります。其コレツヂの學生が講義に依りましたはハーバード大學に於て講義を聴くことが出来るが、是は僅かでありまして原則としては婦人は聴講をさせないのであります。そこでハーバード大學の教授は大學の教授であり、又同時にコレツヂの教授であると云ふ人がある。此等は同じ講義を男子と女子と二つにやつて居る様であります。全く同じやうな講義を是は男の學生にする、是は女の學生にすると云ふやうに時間を變へてやつて居る。それにも拘らずハーバード大學は一方から申せば保守主義でありまして男女合併はやらない。私の講義は婦人を許してはありませぬ。唯學會其他から講演をして呉れと云ふことを頼まれて参りますと、豫て聞いては居りましたけれども、夫れ程ではないと思つたのに驚きましたのは、婦人が多いのであります。學會と申せば婦人が居つた所で男子の三分の一か四分の一位だと思つて参りますと、或る場

合には婦人の方が多數であります。寧ろ婦人が主要部を占めて男子は婦人に附屬して少しばかり出て居ると云ふのがある。若しさうならばもう少し講演を替へるのであつたと後から考へたこともありました。兎に角さう云ふ風に學會に於ても婦人が多數出席して居る。講演が濟みました後に通例質問を允して呉れるかと言つて聞くから、差支ありませんと能く質問を致しますが、それは男子よりも却て婦人の方が多く質問をする。中には淺薄なる質問も随分ありますが、又中には書物などを讀んで居つて多少知つて居つて質問をするのもある。さう云ふ風で知識を得ることに就ては頗る昂めて居る。其外ポストンの方に大學擴張講義と云ふのがあります。是はハーバードの大家などが行つて講義をして居る、此等には婦人が澤山參つて居る。其他婦人が色々研究の機關を造つて居りまして、婦人だけの會で學者を招聘して色々専門の話をして貰つて居る。日本の婦人から見れば極く平易に話せば濟むやうであります。が、中々亞米利加では然うでないやうであります。色々専門の學者を呼んで來て話を聽いて居りますし雑誌などを見て勉強して居りますから、女だと云ふて平易な話で宜からうと云ふ考で行くと却て御機嫌の悪いことがある。さう云ふ風で、中々婦人が知識を有つて居る。殊に日本と違つて政治が共和主義であるからでもありませんが、婦人が非常に政治の趣味を有つて居る、中々政治上の議論をするのであります。獨逸邊では婦人と話をする時には芝居か音楽の話でもすれば濟むと言つて居りますが、亞米利加の婦人は中々政治論をやる、教育論もやる。日本の教育はどう云ふ風にやつて居るか、道德教育はどう

云ふ風にやつて居るか云ふことを聞いたりする。是は國が斯様な國であるから婦人と雖も政治上の興味を持たなければ出来ないことでありませうし、殊に或る部分は参政權も有つて居るから然うなるのでありませうが、参政權を有つて居らない所のポストン邊の婦人でも中々政治論をやる、同時に又各種の活動をやつて居る。御承知の通り亞米利加では地方に依て婦人が参政權を有つて居る所と参政權を有つて居らぬ所とあります。マサチュセツ州は全體参政權はないが近來猛烈に運動をやつて居ります。大學の教授の奥さんなどと云ふのも澤山加はつて居る。殆ど家の事を棄て、そんなことに一週間も二週間も狂奔して居つた人がある様であります。其他社會的事業に對して活動して居る。兎に角婦人が中々知識を有し又政治上の趣味を持ち且つ各種の方面に活動して居ると云ふことは、豫て聞いて居りましたが頗る感じました。唯婦人として見ましたならば、どうも婦人らしくないと云ふ風に日本人には考へられるかも知れぬが、兎に角さう云ふ状態でやつて居ります。

其亞米利加の婦人から時々——是は極く狭い範圍で又其中の一部分であります、聞かれますことは、日本の子供の躰方がどうしてア、云ふ風に良く出来るかと云ふことであります。どうも亞米利加では柔順と云ふ徳を非常に缺いて居る。子供が長者父兄に向つて尊敬或は柔順と云ふことが無い、どうかして日本の様に柔順の徳を養はせたい、どうして宜いか、日本ではどうして養つて居るか云ふことを聞く。是は近來亞米利加で大分さう云ふことが出て居る様であります。日本の子供に比較しての話でありませ

うが、柔順の徳を缺くと云ふことに餘程亞米利加人の説が有るやうてあります。丁度此處でございましたか、子供の週「ベビーズウィーク」と云ふのがありました。是は亞米利加の各地でやつたのであります。大統領ウイルソンなども非常に賛成して極力之を奨励したのであります。兎に角赤子の爲に有らゆる方面から即ち醫學上衛生上其他總ての點から、赤子を如何に取扱ふべきか、赤子を如何に發達せしむべきか、如何に生活せしむ可きかと云ふことに就て演説もするし實際の例を以て示す。即ち赤子の保育などのことを一般に知らしめると云ふのです。ポストン邊では大分専門家が演説などをして居りましたが、其演説の中に於て大分亞米利加人の柔順の徳を缺いて居ることを叫んで居つた様であります。無論是は赤子に對する考ではないのであります。詰り母とか或は父と云ふ人に對してのことであります。畢竟父母と云ふ者が不柔順であると云ふことであります。是は醫者として父母を觀た時に父母が不柔順であると云ふので、父母が不柔順であるものならば、子供の不柔順になるのは自然の結果であります。どう云ふことで不柔順になるかと云ふと、如何に赤子を取扱へとか如何に患者を取扱へとか、如何に疾病の時分に注意をしると言ふても中々亞米利加の人は肯かぬと云ふ、是も經濟上の問題とか色々のことがあります。兎に角吾々が言ふのではない、亞米利加の人が亞米利加人を批評して言ふのでありますから、吾々は之を側から批評しないで聞いて居つて宜からうと思ひますが、兎に角醫者の命令に服従しない。こんなことでは、亞米利加の國民が將來健全なる國民にはなれないと云ふことを喧ましく言つて

やうであります、赤子を如何に取扱ふ可きかと云ふ其機會を利用して熾んに言つて居つた。其他種々の方面からやつて居る。又此頃頻りに軍備擴張の問題が起つて居ります。一方から之に反對する論者もあありますが、又一方からは賛成する者もある。其賛成の理由として、軍備擴張をやる結果としては多數の國民が兵役に服さなければならぬ、兵役に服すると云ふことは即ち命令に服従すると云ふ美德を養成する譯である。命令に服従する美德を十分に養成しなければ共和國は成立たない。斯う云ふ方面から軍備擴張を賛成すると云ふ演説をやつて居つた人が澤山あつたやうであります。又今申しました如く醫者は患者が不柔順であると云ふことを叫び、又母は己れの子供が父母に柔順でないことを申して、日本の子供が如何にして柔順であるか、其驕方を聞きたい、出來得べくんば日本の者が來て自分の國の子供を教育して貰ひたいと云ふことを言つた。さう云ふ風でありますから、亞米利加の人に言はせますと、子供が不柔順だと言つて責めるのは無理で、第一親自身が不柔順であると云ふ人もありますが、兎に角さう云ふことを大分感じて居る様に見えます。斯う云ふ點から申しますと東洋の道德に於て長者を尊敬する老者を尊敬する同時に柔順であると云ふことは餘程亞米利加の人に今日になつて感じを與へると云ふことを考へましたのであります。

次に日本に對する感じてあります。先刻申しました様に亞米利加人の日本に對する感じと云ふものは、さう云ふ廣い問題を私が此所で説明致す資格は備へて居らないのでありまして、唯自分の見聞した狭い

範圍のことを申すのでありますが、私の居りましたハーバード大學などは是は全然別物でありまして、殊に私は教授として參つたのでありますから尙別であります。小村子爵、金子子爵もとの吉川男爵、目賀田男爵と云ふやうな歴々の方は皆ハーバード大學の卒業生であります。さう云ふ譯でありますからハーバード大學は日本の政治界教育界を動かした所の多くの力を養成して居る、餘程好意を有つて居ると云ふことは自然の話であります。中には餘程獨逸最負の人もある様であります。是は附けたりのことてあります。ハーバードと歐羅巴と交換教授をやつて居るのであります。獨逸なら獨逸に參つて或る大學に半年若くは一年居据りに居つて講議をして來る。丁度私が此間行つて來たのであります。あれが歐羅巴との交換教授であります。斯う云ふ時に獨逸などへ行つた人は獨逸皇帝から頗る優遇されて居る。殊に獨逸皇帝はハーバード大學に對して頗る優遇した様であります。兎に角其結果として獨逸最負になつて居る人があるやうであります。概して日本に對して餘程好意を有つて居る。日本講座を置くことになりましたのは、それが現はれたのであります。隨て大學を中心とした所のケンブリッジの街は申すまでもなく、ボストンも亦日本最負の人が非常に多い。殊に彼處に有名なる美術館が有りました。日本及び支那の粹を抜いたものが随分集つて居る。無論陳列して公衆に觀せるものを集めたもの、中の一部分であります。頗る卓越せるものがあつて、それを觀て居る所のボストン市民と云ふものは、日本の文化日本の文明は決して侮るべきものでないと云ふことを知つて居る。又多數の日本を觀て來た人もある。

日本から留學生なども行つて居る、勞働的の人は多少行つて居りますが、是は多くない。詰り紳士と稱すべき人が澤山行つて居る。それが爲に日本人と云ふものを少し見過ぎて居るかも知れませぬが、兎に角好く言つて居る。所が、西の方に參りますとまるで事情が變つて居ります。さう云ふ譯でありますからボストンでも是が直ぐ亞米利加人の日本に對する感じと云ふことを申せば、まるで一斑を以て全豹を推すと云ふ誤に陥る。又太平洋沿岸の經驗を以て亞米利加人の日本に對する考は斯の如くであると云ふことを言つたら是亦一斑を以て全豹を推すと云ふ誤に陥るのであります。

私が歸り掛に同船しました所の日本人の中に長く亞米利加に居つた人が二人居りました。一人は紐育に居つた、一人は太平洋沿岸に居つた人であります。其兩人が亞米利加人は日本に對してどう云ふ態度を有つて居るか又亞米利加人はどう云ふ風に自分達を觀て居るかと云ふ議論をして居りましたが、餘程興味があると思ひました。紐育に居りました方の人は、日本人より亞米利加の方が親切であつて確であると言ふ、是は少し極端でありまして比較的若い時に日本を去つて却て日本人と云ふものを知らぬのかも知れませぬが、兎に角日本人より亞米利加の方が所謂然諾を重んずると言つて居つた。太平洋沿岸から歸つて來た方の人は亞米利加人を頭から悪く言つて居つて、まるで反對の議論をして居りました。さう云ふ風に、居る所の地方に依て經驗が違ふのであります。亞米利加人を觀る見方が違ふ。隨て亞米利加人の感じを餘程違つた見地から論ずることになるのであります。唯私の申上げたいことは、新聞雜

誌と云ふものに近頃現はれることを以て申上げて見たいのであります。是は始終ある話であります。私
が亞米利加に居ります間に絶えず新聞や雑誌に日本人と云ふものゝ頗る恐るべき者だと云ふ感じを亞
米利加人に與へる様な繪若くは記事が出るのであります。而已ならず政治家が頻りに日本に對する畏怖
心と云ふものを無遠慮に公言して居る。電報の如きは頗る日本人が野心を有つて或る行動をして居るや
うな電報が時々出て来る。始終亞米利加人がどれ程神經的に日本人を觀て居るかと云ふことを感じたの
であります。無論新聞も色々種類がありまして所謂黄色新聞とか言ふのは日本のことを悪く言ふに決つ
て居ります。ハーバード大學などを出たものは何も心配することは無い。吾々識者はそんなことを思つ
て居らぬ。日本が亞米利加を撃つ準備をして居ると云ふことは信じない、あれはまるで間違ひだと言ふ
けれども、兎に角其間違つた話が新聞に澤山出まして、其新聞が中流以下に随分廣がるのでありますか
ら、初めはそんなことは無からうと思つて居りまして遂には疑心暗鬼と化して日本に對して多少疑念
を抱く者がありはしないかと私は多少心配したのであります。是は一面から申しますれば自信力の強い
い亞米利加人にして此小さい日本を恐れると云ふことは大變可笑しい様でありますけれども、兎に角日
本が亞米利加を撃つて來ると云ふことを心配して居る。所謂足許から鳥の立つやうに新聞が書き立てる。
是も裏を探しますと色々な推測をすることも出來やうと思ひます。又さう云ふことを言ふ人もあります。
政治家が頻りにさう云ふことを論ずる。或る議員が軍備擴張の問題に就いて、日本は亞米利加の敵であ

る恐るべき敵である、將來恐るべき而已ならず目下恐るべき敵である、何時何ん時撃つて来るかも知れぬと云ふことを頻りに言ふ。是は餘程面白いことには、私が居りましたボストン邊の人はさう云ふことを言はぬのです。ボストン邊に居る人は大西洋の海岸の方に恐るべき敵を認めて居るのです。それは申さんでも無論分りませうが、歐羅巴が亞米利加の恐るべき敵であると言つて、軍備擴張は其敵に對する準備である、今は戰爭して居るが一旦戰爭が熄めば鋒先を轉じて亞米利加を撃つ、彼のヴェルダン攻撃の時などは何が故にヴェルダンをあの如く猛烈に攻撃するかと云ふと、早く歐羅巴を撃つて亞米利加を攻撃仕様とするのであると、夫れ迄に言つて居る。兎に角此敵がボストン紐育の要塞を破つて上陸して仕舞へば亞米利加の死命は制されて仕舞ふ。亞米利加の自然の力如何に大なりと雖も無限の富源を有つて製造力は極めて大なりと雖も、其亞米利加の製造高の三分の二は紐育を中心として百八十哩の輪を畫いて其輪の内にあると云ふ。所が其歐羅巴から來た敵がボストン紐育を破つて上陸して仕舞へば此百八十哩を手の内に收めることは一朝にして出来る、それを手の内に收めて仕舞つたら亞米利加の死命は直に制されると云ふので頻りにボストン紐育を敵の手に渡さぬやうにしなければならぬと言ひ、それが海軍擴張の必要なる所以であると絶叫して居る。

所が太平洋沿岸の代議士などは、そんなことを言つた所で誰も感じない。紐育を取られて亞米利加の死命を制されると言つても、ロッキーマンの山に居る人間であるから餘り感じないのであります。そ

れは敵を日本と見るより仕方がない。太平洋沿岸に恐るべき敵が在る。あれが何時でも来る、随分責任ある人などが、日本は一ヶ月にして二十萬の兵を上陸させることが出来る、亞米利加はどうなると言つて、頻りに亞米利加人の感じを起して居る。次には北の方から選出されました代議士は、獨逸とか何とか歐羅巴のことを言ふのにも少し遠いし日本だけを言ふにも少し遠くなつてもう少し北の方が適切に感ずる様なことを考へなければならぬ。そこで斯う云ふ先生の中には、日英同盟で亞米利加を攻めると言ふのです。成程加奈太と云ふものがありますから、詰り英吉利と日本と兩方が加奈太から亞米利加の北部に進入して來ると云ふ中々難しい議論をして居つて、日本では今移民を加奈太に送ることが出来ない、其移民を送ることの出来ない其英吉利と日本が同盟して居ると云ふことは何の爲か、斯う云ふことを論じて居る。是は全く亞米利加を撃たんが爲である、即ち兩方から兵を加奈太に送つて亞米利加の北から押込む爲である。日英同盟の目的は外にはない、其證據には加奈太の鐵道は皆軍時鐵道であると云ふことを言つて居る。斯様にして北部の議員は日本と英吉利を敵だと言つて居る。まだ私が居りました時分には日英同盟の外に日本と歐羅巴の或る國と手を結んでどうすると云ふことを議論した人は無かつた。是は亞米利加でも日本でも然うであります、代議士と云ふ様な人になりますと選舉民の意嚮を考へなければなりませんので、太平洋沿岸で頻りに日本人を排斥する所では排日の議論でなければ代議士になれない。殊に亞米利加は勞働者が投票權を有つて居るからどうしても太平洋沿岸から出る代議士は、一個

人としての意見は兎も角も、公人として代議士にならうとする時にはさう云ふ議論をしなければならぬ、新聞雑誌に政治家の言論などを見ますれば、さう云ふ風に日本がイツ亞米利加を撃つかも知れぬ。又何時でも撃てるだけの準備が出来て居ると言ふて居る。中には随分間違つて居るのがある。日本の政體を少しも知らないやうな議論までして居る。是は亞米利加それ自身が現在では陸軍が甚だ手薄である、海軍擴張をして居るが海軍擴張が出来上つて仕舞ふまでに日本が撃つて來ると云ふことになつては恐ろしいのでありませうが、兎に角日本を大層恐れて居る。日本と云ふものをもとは自分の子供位に思ふて世話をして呉れたのでありませうが、今では大分日本も大きくなつて來たので、モウ昔日の子供てはない、先づ自分と同じまでになつて居るとは思ひますまいが、兎に角自分の弟分位までには思つて居る。其弟分が何時でも兄の頭を打ちに來ると思つて居るから、是は随分恐れるかも知れぬ。さう云ふ譯で亞米利加人が日本に對しての感じは土地に依ても違ひますが、西の方では悪い感じを持つて居る人があります。さう云ふことは姑く措きまして、兎に角亞米利加としての公に現はれる議論などは日本と親しむと云ふ方の論は趣い様な風であります。

又宣教師などの立場から見ますと、是亦日本には餘り宣教師を送らぬと云ふことになつて居る。支那とか印度の方に多く送ると云ふことが、詰り日本に宣教師を送つた所が大した効果が無いと云ふ所からさう云ふ方針を執つた様であります。それと同じ様な感じを大分持つて居る。日本には手を付ける餘地

がない、有らぬる仕事を日本人自から爲し得る地位に進んで來た、今亞米利加人が行つて見た所で、大きな資本を投じて何か仕事をして相當の利益を得る餘地が無いと云ふ風に考へて居るかと思ひます。そして寧ろ支那とか印度とか云ふ方面に手を着ける事に非常な興味を持つて居る様でありますが、さう云ふ風で、日本に對して仕事をする餘地が無いと云ふことが、同時に一方から日本の頻りに恐るべきものと云ふ風に説く者がありますと日本と親しむと云ふ念は淺くなると考へられるのであります。併し是は將來戦争でも濟んだ後さう云ふことは憂ふべきことであつて、更に之を大にしては世界の平和の爲に憂ふべきこととありますが、兎に角今日此儘放任して置いたならば容易ならぬことと思ふ。先達外務大臣が何處かの話で日米の交り益々親厚であると言はれたことを亞米利加人は餘程不思議に思つて居るやうてあります、外務大臣が妙な演説をしたと云ふことは無論は一部の人がありますが、そんなことを言つて居る。詰り其裏には日米の關係はさう親厚では無いのに外務大臣が御世辭を言つて、まるで時宜を得ない様に感じて居る人もある。さう云ふ關係になつて居る。是は大に憂ふべきことと思ひます。私などは唯孔子教を教へに參つたのでありますから、無論そんな方面に活動する權利も無し、又さう云ふことに活動する柄もありませぬから、外に自からさう云ふことに竭して居る人がある。併し實業なり其他の方面に於きまして日米の關係を親しくすることに勤めると云ふことは、日本人として大に考へなければならぬと思ふ。亞米利加の新聞も隨分筆法を謹まないこともありますけれども、日本の新聞にも際

分不謹慎なる言論をする人もある様であります。此等も随分影響する所尠なくなからうと思ふのであります。兎に角日本國民全體として、一面には支那と云ふ問題もあります。一面には亞米利加と云ふものがある。此二つに向つて益々親厚ならんことを求めるやうな方針を執つて行かなければならぬと思ふのであります。

極く雜駁なる私の感じの中の或るものを頭腦の中から抜き出してお話を致しました。秩序も無く甚だ御聽き苦しかつたらうと思ふのであります。(完)



余の見聞したる米國

奉_レ持_レ法者、不_レ以_レ多_レ言、雖_レ素少聞、身依_レ

法行、守_レ道不_レ忘、可_レ謂_レ奉_レ法（法句經）